

## 関わること その楽しさと価値を子供たちに

北野小学校長 丹羽 郁人

東京医療学院大学の前の学長である関根郁夫氏は、学位授与式辞で「生きる意味」について語った。学生たちが、大きな悲しみや苦しみに直面する」とは今後ある。そのときの一助になればと願って話したそうである。

「人が生きる意味は、人と人、人との、人と出来事の間にも生まれる。あなたがいて、あなたと関わることで、私の生きる意味は見えてきて、自分が生きる意味のある存在になっていく。大切にしたい人やもの、ことに出会い、それを大切にすることで、生きる意味が生まれてくる。」と。

人と人、人との、人と出来事との関わりを豊かにすること、関わりの中から意味や価値を見いだそうとすること。それは、大人が、そして学校がなすべきことに違いない。



昔「二年生になったら」という歌が流行った。まど・みちお作詞の歌である。こんな歌詞である。

「♪一年生になったら 一年生になったら  
ともだち一〇〇人 できるかな  
一〇〇人で 食べたいな  
富士山の上で おにぎりを  
パクン パクン パクンと」

一〇〇人というのは誇張した表現だが、多くの子が集う小学校で、関わり合うことで学ぶことは、とてつもなく大きい。

もちろん、一人遊びが好きでも何も問題はない。人づきあいが極端に苦手な子もいるに違いない。

大切なことは、「他者意識」をもつことだ。そして、**ふれあい、関わり**「との楽しさや価値」に、少しずつでもいいから、気づき始めることだ。

関わることで、傷つくこともあるかもしれない。トラブルも起こるに違いない。でも、そうやって、人との関わり方を学んでいくのだ。

どうか、多くの子が集うこの学校で、関わることの素晴らしさを、尊さを、味わい、学んでほしいと願っている。

(二〇二二・一〇・二〇)